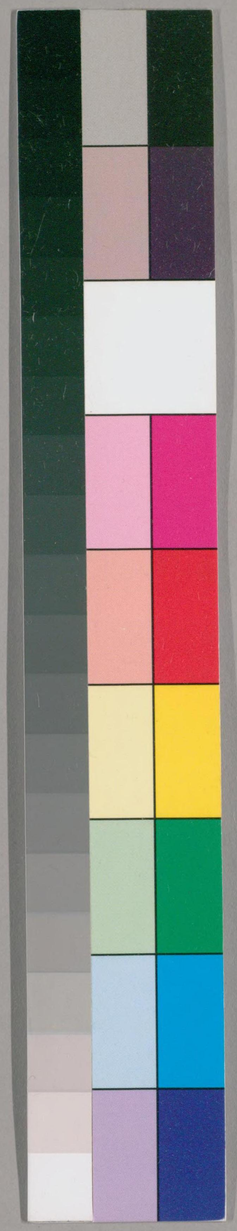
857
120
取扱注意
識入



国立国会図書館　タイトル『源氏物語』 請求記号 857-120
ガラス使用

857-120

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

[illegible]

[illegible]

橋姫

[illegible]

一名侍従塞 [illegible]

[illegible]

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

さすがにひろくおもしろき宮のいけ山などの気色
ぐらりむかしにかつらでいとゆうあれまさる後
つれぐとながめのふけいしなどもむのくしき
人もなりそれいとりつくろふひともなきまゝに
草あ浅やかにしぐり行のきのぶゞ所えがかに
けをこゝにつくれる。おりくにつけたる草もみぢのい
ろをもかをも。おなじこゝろにミゝやし給しとそ。
なぐさむことも。おほかりそれ。いとゞしくさびしく
よりつゝむかたなき海くに。打仏のれかぐりぐり後
ひざとせかて。明くれとてなひ給。かゝるほどし

どもにかつゞふぐに。ふひのほかにちおしう。ひが
心ながらもかなしぐりけるちぐりとおぼゆる後ま
いてなまくか世の人めいて。いまさらにとのこさし
月にそへて。世中とおぼしたるれつゝ。心ぐりは
ひざりになりたてまて。故君のうをなしたるは
例の人ざ海なりこゝろぐへなど。こゝろふれにても
おぼし出給はざりかり。しまどか。けしもいかなく
ほどれかなしひは。又世にしぐひなきやうにのこ
こそはおぼゆべかめれとおりそれがさのこやは。
世人になずらふ此心づくひなしまて。いとかくこ
ぐうしくこゝろぐさなきこゝやのうちもとのづら

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

（源氏之）
（八宮・姫君たちへとはあることなし）
（秘冷泉院よりおづけきこえたまふ）

おん
御ぞ
入
ぬ
ぎ
か
へ
さ
せ
た
ま
ふ
と
て
、
（秘冷泉院の世をいとめでたきものにおぼしめしたるよし）

世
を
い
と
ふ
こ
こ
ろ
や
は
か
く
る
る
雲
ゐ
を
も
な
ほ
へ
だ
つ
る
お
ぼ
つ
か
な
さ

（秘ひとりごとをいとかしこくいひなしたまへり）

（冷泉院）
（秘冷泉院の世をいとめでたきものにおぼしめしたるよし）

（八宮）
おとど
（秘ひとりごとをいとかしこくいひなしたまへり）

人
の
つ
ら
さ
よ
、
ま
れ
な
る
心
う
き
に
そ
へ
て
な
ほ
と
ま
り
が
た
き
こ
の
よ
の
ほ
だ
し
に
な
ら
ひ
て
、
あ
や
う
げ
な
き
こ
と
を
ば
ひ
た
ぶ
る
に
お
ぼ
し
て
、
（秘ひとりごとをいとかしこくいひなしたまへり）

（秘ひとりごとをいとかしこくいひなしたまへり）

（秘ひとりごとをいとかしこくいひなしたまへり）

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

思ふて、かさせ給ふんとて、ふ所は、志だしやとめし
よきて、辛（詞）ごろ人づてまのこさして、ゆかしくせふ
れことのひどもとうれしこさありかな、志げしすこし
こちかくれて、さくべきもれく人物ありやつきなく
さしきてまいりよらんほどこれことやめぬても、
いとほいなうらんとの給、れけれ（あぬん 蓋のこゝろをこゝろ人せんとも）ひかりうちのさ
なる所くしきこちまもいとめでたくかうじけ
なくおぼゆまじ（あぬん 詞）ひとさうぬ時はおけくれくなん
あそとせど、志もべきてもこやこれかたより来りた
ちまじな人給ふとさはどともさせ給ひず、大かた
くて女君たちおりしますとはばかくさせ給ひ、

なべてのひとましくせなくじとおぼしの給は
すかとよきばうち（なか 蓋）ひておぢさなきれもれ
がしやなり志のびの給なれど、これ人有がたき
せのこゝろしまさく出べかめるをとのぬてなす所
しるべきよ、我はすきぐしきこころなどなき人ぞ、
かくておりしますらんれ有き海のおやしくげよ
なべてまおぼしのくぬなるとうまやりまのぬへだ、
あかりしこ心なきやうまほのこさてや給らんとて、
あるこのおまへいたけのすいかいしら先て、これ
べでことなる所なしへよをこてまいわりれと
もれ人をよしのらうまよびすへてこれ所ぬべ

竹のすいかい 白 五架三間新草堂 石附松桂竹編牆 白氏文集

あべしふ。おるまゝにかゝへ。めつすいぷいの中を
てこれとこしらへまきまゝ
あけて　蓋をたらく捲こうるゝ　まれぬしる上のもの　稚こおりへし
ほどよきりつれりをながめて。すぐれをこゝ
まさあげて。人ごゝねうり。すれこゝいとさむげに身
ほそくなへどめつけたひとり。おるじさ海なる
おとれなどねうり。うちなる人ひとりは。（中　秘是大君かり）しらる
すゝしねくれて。琵琶（びく）をまへにをきて。だちな
てまさぐりまして。ねうるに。雲がくれたりける
月（アクレスハ）隠重山（ニ）
月のまはりまいとあくさし出されば。扇（中汨）なしで
今（アヂテ）撃扇（ヲ）諭（ヲ）
これしても。月はまゝきひべりかりとて。さし
のぞきたる月。いとじくらうたげに匂ひやかなり

扇なりしてこれしてもまねきつへかりけりとく
（行伊行天奥入日）月隠重山とり撃扇喩之　止観　拾あふまつはこれ月の雲かくれなりけれは人の逃しき
我の衣の月をもこれに雲かくれ出りしこと　こんとしらしき
後堀城沙門世務院の御法はありまゝに以扇招月事　後堀にはこれ月
いつまでも出来る人　後日基長の云　漢書に以扇月をまゝかくしと云ふ
音通ずる　御しくなるなりしこと　可のゆゑん　水原
不成衣　註云初之謂不成衣言未是円　紬也　趙日本子義甫詞
とこし　理ふるゝ　扇を取文月の喩ふ事　白絹にこれは扇これ月にたゞせあれとも
撥も月にはなりし　あらねとも扇なりしてもまゝ　さはへりもりと女のやふ　ほとなく
いつまでや次のわかれ入りをかへを撥とし　えもしとあるとも　引へるまゝ　ぐ　学ぶりは
なりしされし　或詩注云月圓似扇故云月扇　ぜ　招月と云詞は詩なりとも姓り入りを
へを撥と云ふのもあしてを月をまゝ　いつる雲なりへし

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

入日そくてう優

淮南子曰 夏后氏之時 羿善射 射日 堯有疎戈而擒之 日落 舜有疎戈而擒之 日落 又史記曰 堯陽次戈迴落日 又還城樂 陵王 左右 ひの ゆく 招 て 日を 手まねく 左右 ひの 傾 き 給 ふ 頃 帝路厘如泥 右得士方 左得龍廻日 光西没東西若月舞樂 手去緩之長曲

河海抄出所 志 詳 一 辨同之 ゝ 向去河海 ゝ 異伽 ゝ 不 ゝ 招 て 日 ゝ 手 ゝ 招 ゝ 給 ゝ 頃 ゝ 帝 ゝ 路 ゝ 厘 ゝ 如 ゝ 泥 ゝ 右 ゝ 得 ゝ 士 ゝ 方 ゝ 左 ゝ 得 ゝ 龍 ゝ 廻 ゝ 日 ゝ 光 ゝ 西 ゝ 没 ゝ 東 ゝ 西 ゝ 若 ゝ 月 ゝ 舞 ゝ 樂 ゝ 手 ゝ 去 ゝ 緩 ゝ 之 ゝ 長 ゝ 曲 ゝ

ゝ ゝ ゝ

あべしふ（葉）あるまはりふべかめるすいかいの中を

入日とうへを撥ふりたれ

（行）淮南子曰魯陽公与韓搆難戦酣日暮日採戈而撝之日撝之反三舎（舎ハサホニタケ）

又史記曰魯陽以戈廻落日　又還城樂陵王とはりやあやかしんとは日の暮に撥して

日を午ようはかへしといふ　漢書隨韓此の轉云我大胡兒吐氣如雷我採須

雷踏厘如泥右得士力左得鞭廻日光西没東西若月舞樂打去縁之長曲

（弄）河海抗出所志詳一禅同之三　問云河海に墨伽ふ漢王をはりやかしんとて日のつもに撥

して日を午ようはかへしといふ　云何書久そや云その書所しかるす樂の譜をとふ

のせるまをとえられたるまや　秘中君の詞也出世多しかるまをとこ

とよくはしたるこれまりにはしたるまたはかへ

（行）琵琶の撥をあさむまたを語用と云ふくしの中にあり上にはかへれ月といひて

須りのうのをもひかせはるんはそしてはるまたはかへ

（行）大玄の詞比巴の隠りまに撥かあさむ也なれそうしたり　又李嶠琵琶行云半日分絃上

王元長同詩曰　於月如可明　吳均詩一前一列位琵琶自辟言規心覚昭月

ふれまたひやりしまへ

まへよよのつねの女しくなよひたるかたへ　そうやとしたりしまとあり

べしそひかしたる人いことのうへまかるふさかく

（大秘中君）

還城（ケンシヤウ）ふ陵王（ラクリヤウ）

ヲアヤフメントス

日ノ善ルニ撥シテ日ヲ午ニカキ返ストカ云リ

史記ニ云魯陽（ロヤウ）ハ戈廻（ホコシカヘス）落日ヲ

ひて（詞）いつ日を返してぐらこそ有れ　さ海ことまも

心をよび給はれ心かれとて　うちつけひたるけれひ今寸

うしをもりうまよりしづきたり（中詞）をよばずともこれも（陰月ノ事月ニエンアリ）

月まるるるゝ抱かるぐ　ちるるさことをうちとけ

の給ふしたるはけれひども（葉ハ）さしまよそまさひやつ

しまはまずいと衰まるつしうおかし　昔物語なるぐ

まかりつゝへて　ゆきなかなどのよむをさくまゆ（クヤマ）

やうのことをいひたるさしもあらざりけんと

まくしをしたるくをげに衰なるもれく　ハ海有ぬ

べき世なりやうとうろうつりぬべし

芳物語ニ云　（行）伊勢物語ニ昭君の琴引かんと　ゆかしかりけ　伊勢物語ニ云　みしたり　又

うつかの物語の中に伊勢物語ニ云　ハ宮ハ宮ハ　みしたりけり　女のすひたりけり　琴とも

おいせあそひかつるのなり　（弄）　（葉の心）　うつかの物語ニ云　かしかりけり　女のすひたりけり

いそこまたりしたりあり　秘伝　伊勢物語ニ云　うつかの物語ニ云　かしかりけり　すしてしたり

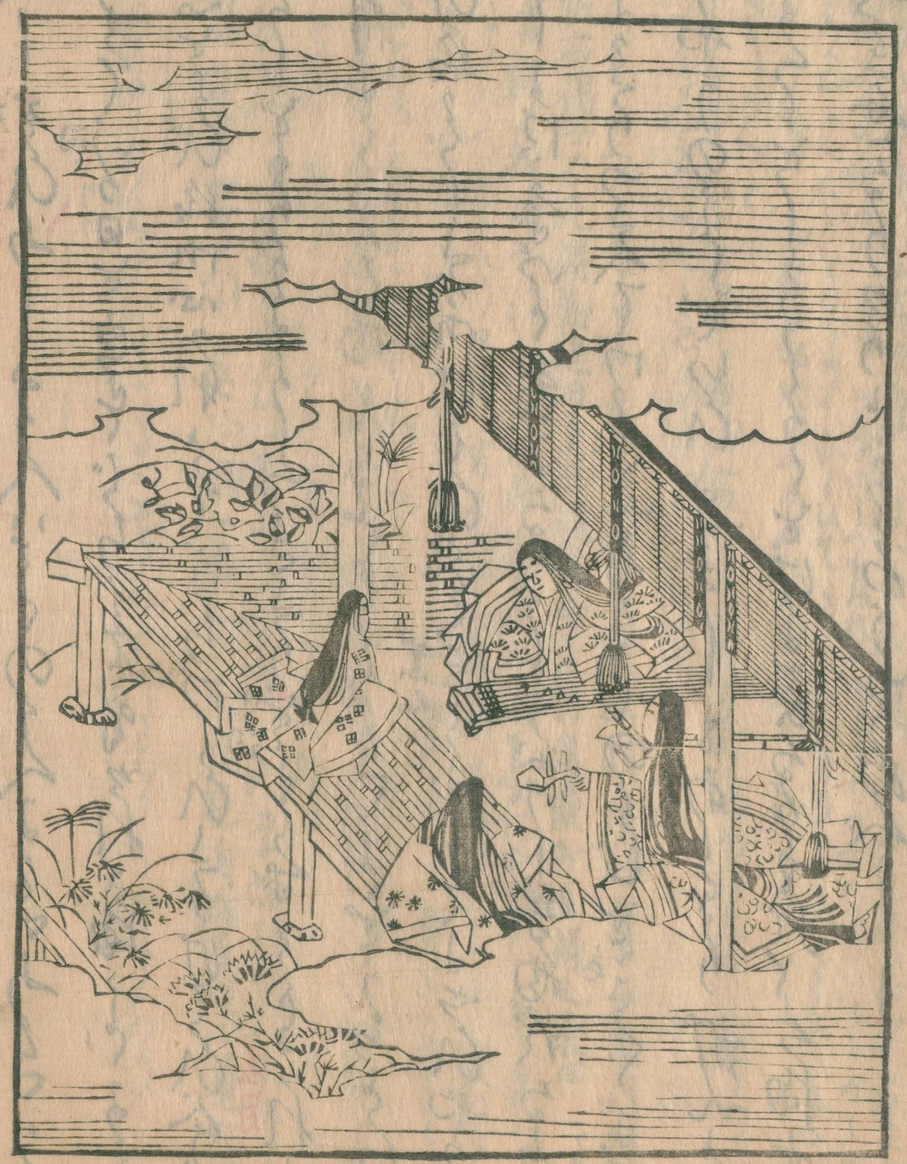
さしまはりしたりけんと

伊勢物語ニ云　やうのうのをいへるとはしたりしまとあり　かしかりけり　とはしたりしまとあり

とはしたりしまとあり　とはしたりしまとあり　とはしたりしまとあり　とはしたりしまとあり

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『源氏物語』 請求記号 857-120

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120　　ガラス使用

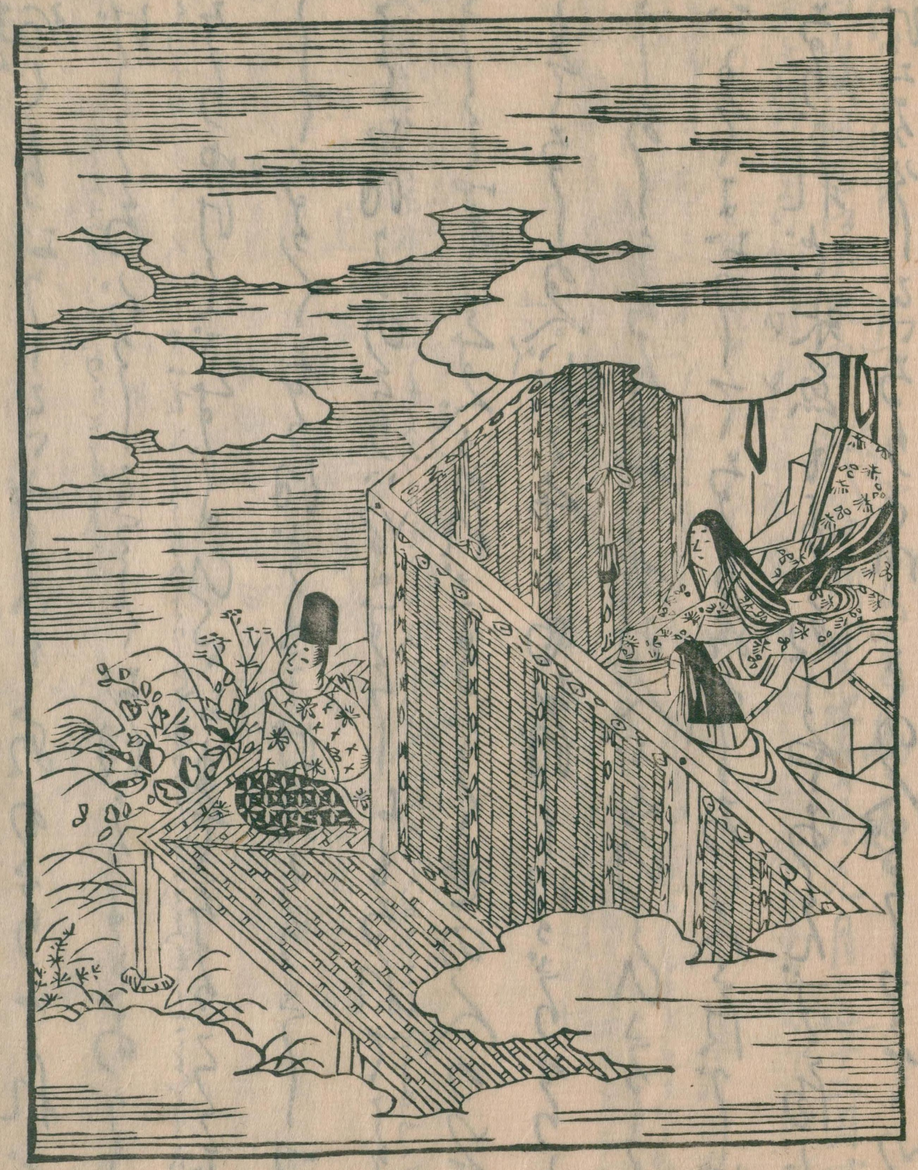
国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

（…）
おやこそ
（細代）
（…）
（…）
（…

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

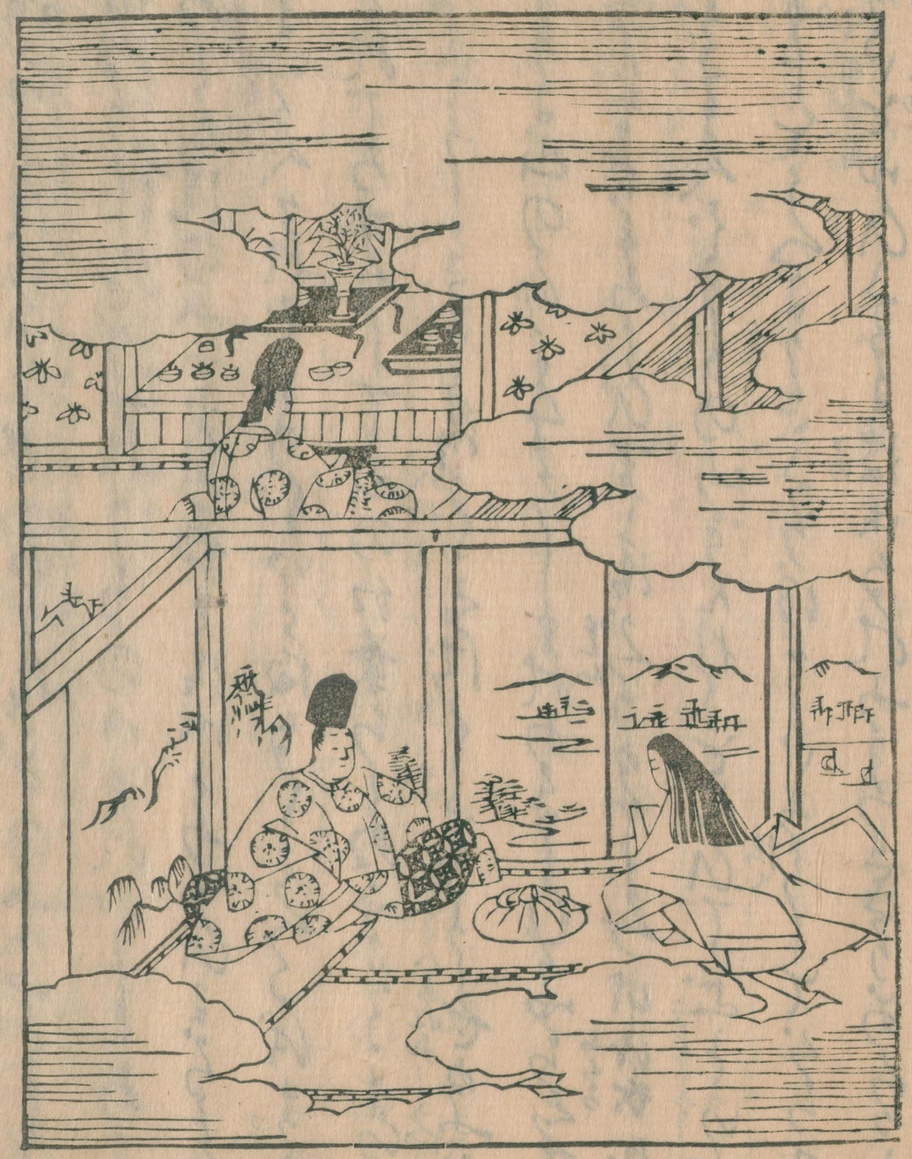
国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120　　ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120　　ガラス使用

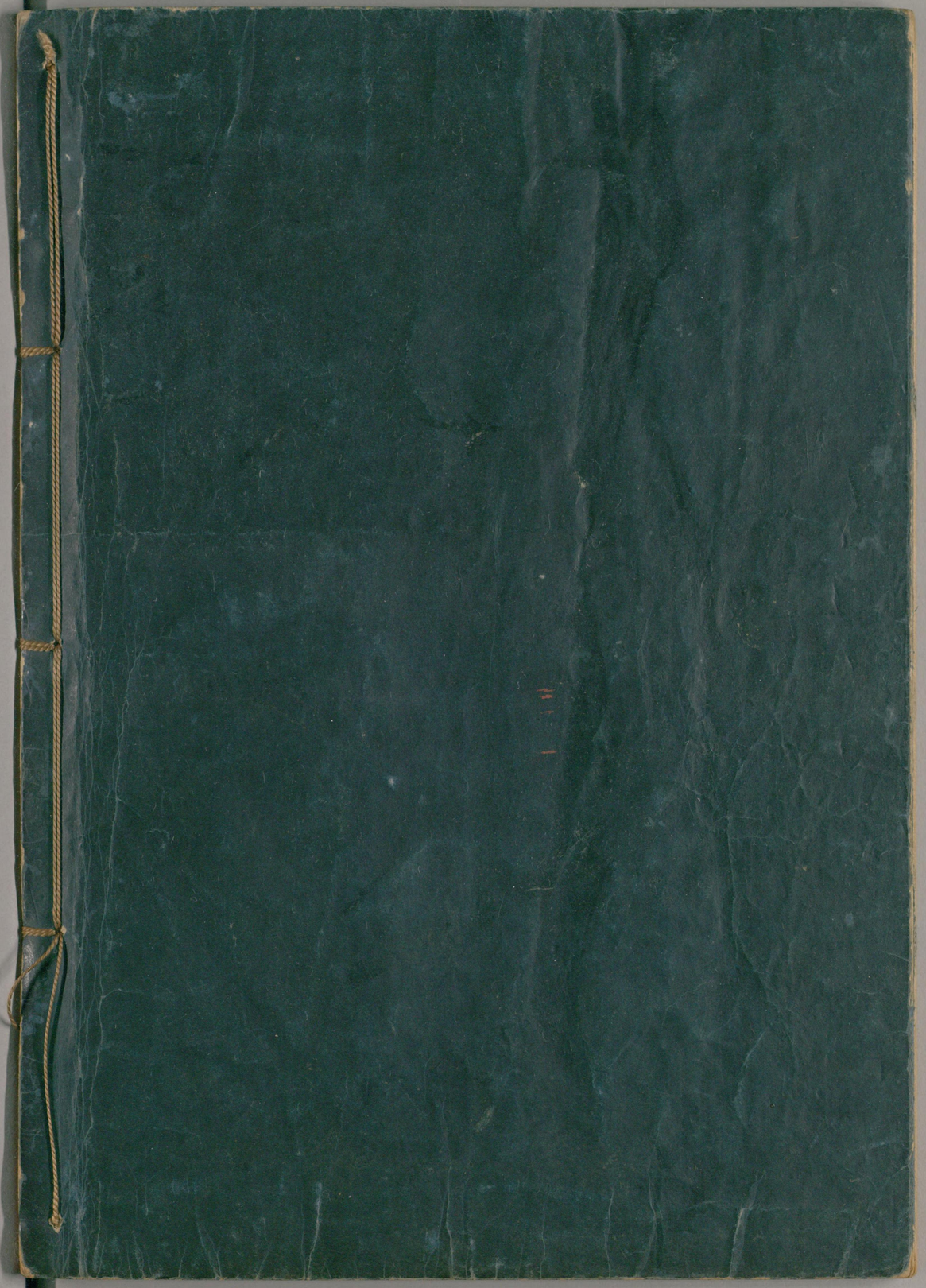
国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

857
120

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用